

環境保全型農業導入者を認定

町内のエコファーマー21名

環境保全型農業に取り組んでいる農業者（エコファーマー）の認定証授与式が7月1日、JA館林市本所で開かれ、本町および館林市の生産者73人が県知事より認定されました。

エコファーマーは、堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・化学農薬の使用の低減を一体的に行っている、持続性の高い農業生産方式を導入した生産者に与えられるものです。食の安全性が問われているなか、消費者の立場に立った農業が求められています。認定者は「化学肥料や農薬を控え、堆肥などの有機肥料を使って安全な農作物を消費者に提供していきたいです」と話していました。

本町の認定農業者21名は、次のかたがたです。（敬称略）

- 本町の認定農業者
- 促成きゅうり生産者（3名）
- 千津井 野本敏夫
- 江口 須藤征幸
- 入ヶ谷 金子功
- 梨生産者（18名）
- 田島 田端義晴、高瀬実、日比野

農地雑草刈り取りのお願い

最近、農地に雑草が目立ってきました。隣接する農地等に変遷感がかかります。雑草は早めに刈

り取るようお願いいたします。

農業委員会

内線351



認定証の交付を受ける生産者

- 久、奈良明、瀧口鎮男、新井義久、新井輝男、奈良正己、小菅良高、瀧口清次、奈良勉、小菅文夫、奈良勝美
- 南大島 島田明、関本忠、鈴木和夫
- 今成不二也、田島進

経済課

内線353

新品種桃の第1候補に「明和白桃」

686点の応募の中から投票で選定

新品種桃命名検討会が7月24日、役場会議室で開かれ、第1候補に「明和白桃」第2候補「明和の乙女」第3候補「明和桃」が決定しました。

桃の新品種登録申請に伴い、既登録名称との重複を防ぐため3種類の名前を募集した結果、県内外から295通、686点の応募をいただきました。斎藤憲町長をはじめ新井幹一明和町桃組合長など10人が参加した命名検討会では、明和町をイメージした親しみの持てる名前を投票で選定しました。

同組合では、桃の品種改良を行い、7月上・中旬ころ収穫できる早生桃の育成に成功し、大きさや糖度とも従来の桃より優れているため、組合で新品種登録を申請して桃の生産振興・消費拡大を図っていく計画です。今後、農林水産省に申請をし、来年夏ごろに1種類の品種名が正式決定



新種(早生もの)桃

する予定です。

第1・第2・第3候補の命名者は、複数応募の中から抽選により次のとおり決定しました。また、命名者には川中島白桃など5キを進呈することになりました。

- 決定名・命名者（敬称略）
- 第1候補「明和白桃（メイワハクトウ）」 岡部初美（高崎市）
- 第2候補「明和の乙女（メイワノオトメ）」 奈良モト（明和町）
- 第3候補「明和桃（メイワモモ）」 岡野てみ子（館林市）



複数応募の中から抽選で命名者を決定

経済課

内線353